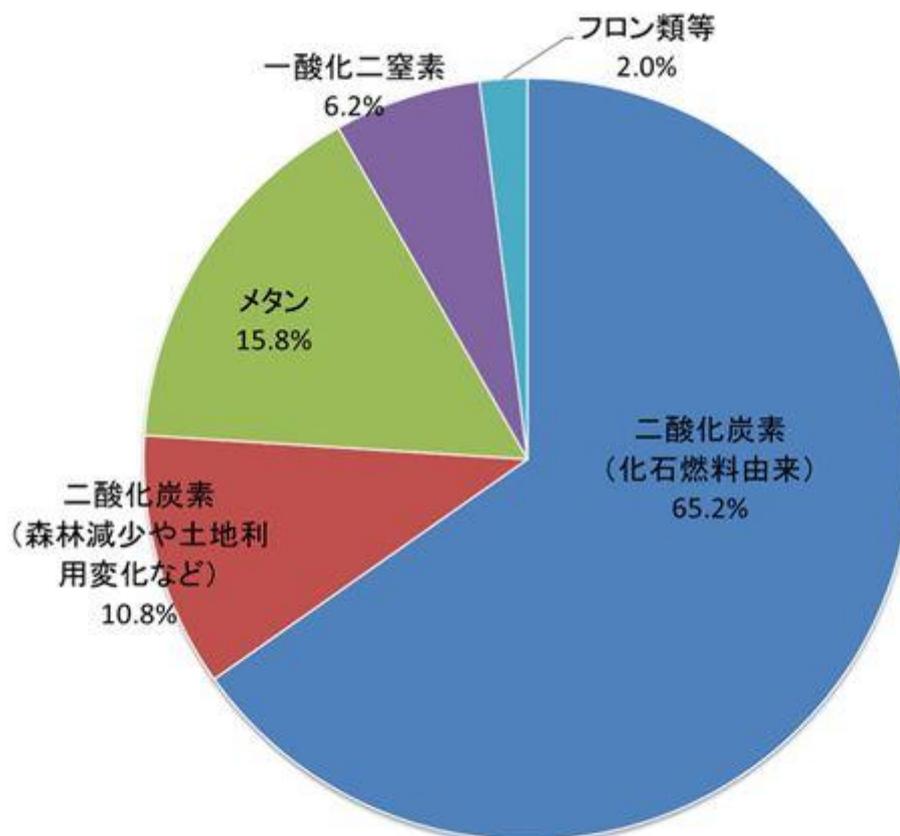


牛のげっぷと温暖化

世界の温室効果ガスのうち、メタンは 15.8% (CO₂換算) を占める。これはメタンの温室効果が、CO₂の 28 倍と高いためだ。



人為起源の温室効果ガスの総排出量に占めるガスの種類別の割合
(2010年の二酸化炭素換算量での数値： [IPCC第5次評価報告書](#)より作図)

メタンのうち最大の 24%を占めるのが、消化管内発酵つまりゲップやオナラである。

これは「牛、水牛、めん羊、山羊などの反芻動物は複胃を持っており、第一胃でセルロース等を分解するために嫌氣的発酵を行い、その際にメタンが発生する」 からだ ([国立環境研究所](#))。

世界のメタン発生源詳細版



UNFCCC Green house gas Inventory Data 2015

メタンが温室効果の 15.8%をもたらし、そのメタンの 24%が腸内発酵だとすると、地球上の温室効果ガスの 3.8%が家畜のゲップとオナラから発生することになる。これはちょっと信じられないかもしれないが、IPCC も警告している重要な問題である。

だから厳密にいうと、温室効果ガスを減らす方法は化石燃料を減らすだけではない。牛肉を食べる量を減らして家畜を減らせば、メタンの発生量は減るのだ。植物でつくった

人工肉を開発するベンチャー企業もたくさん出ている。

牛は、鶏や豚に比べて、排出する温室効果ガスが多く、国連食糧農業機関のデータでは 6 倍以上だという。

小泉発言で波紋も「牛肉と環境」

